

<京都の夏を涼しく過ごす工夫・知恵>



京都では、建物も人と同じく、夏になると衣替えをします。6月になると「建具替え」といって、建具や敷物などの冬のしつらえを夏用に変えるのです。エアコンがない京町家では、障子や襖は、葎戸や座敷すだれなど風をよく通すものに替え、畳の上には、冷たい感触の籐むしろという敷物を敷きます。

また、建具替えだけでなく、暮らしにも少しでも涼しくするための色んな工夫を取り入れ

ています。例えば、座布団のカバーを肌触りのさらっとした夏用の生地のものに替えたり、音が涼しげな風鈴を吊ったり、光が透けて見える薄い生地のをれんををかけたしたりして、見た目も涼しく感じられるようにします。縁側には軒すだれをかけて太陽の光を遮ったり、戸を開けていても蚊が寄ってこないように蚊取り線香を焚くなど、色んな知恵や工夫を取り入れて、蒸し暑い夏を乗り越えています。



講師：秦 めぐみ氏